

各学力調査の対象学年・教科

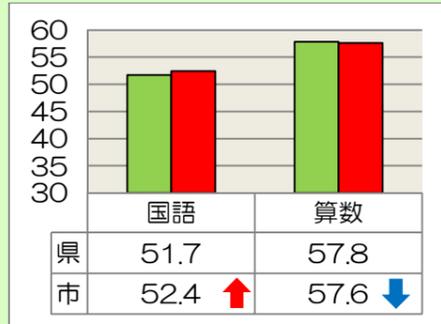
- ◇長崎県学力調査
 - 小学5年生(国・算)
 - 小学6年生(理)
 - 中学2年生(国・数)
 - 中学3年生(英)
 - ◇全国学力・学習状況調査
 - 小学6年生(国・算)
 - 中学3年生(国・数)
- ※県・全国学力調査の結果(参考値)は正答率を示しています。

各学力調査の実施期間及び提出率

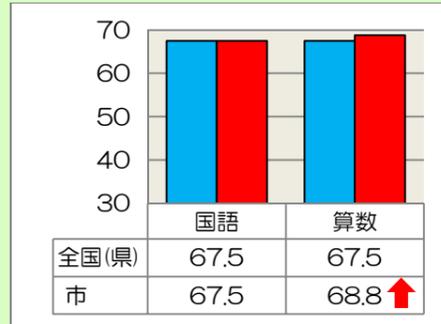
- ◇長崎県学力調査
 - 小：7/1(水)～7/31(金)
 - 中：7/1(水)～8/31(月)
 - *8/24(月)迄に提出されたデータが長崎市の平均正答率となる。
 - 提出率：小学校：100%
 - 中学校：85%

- ◇全国学力・学習状況調査
 - 小・中：7月中旬～8/19(水)
 - *各学校で実施判断
 - *8/24(月)迄に提出されたデータが長崎市の平均正答率となる
 - ・小学6年生(国・算)：76%
 - ・中学3年生(国)：46%
 - (数)：43%

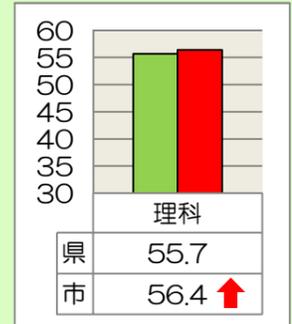
【小学5年生】



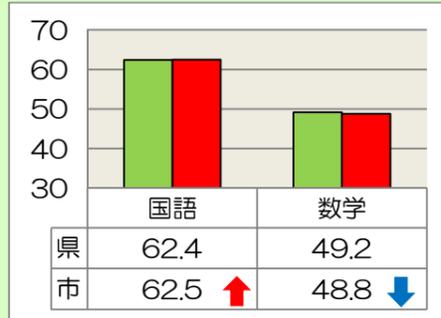
【小学6年生】



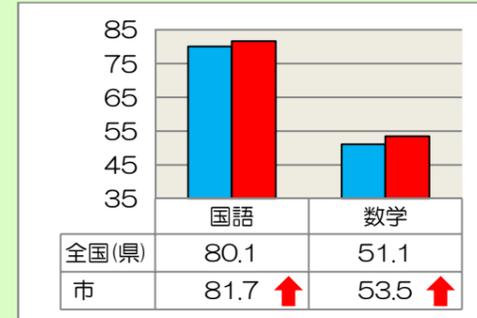
【小学6年生】



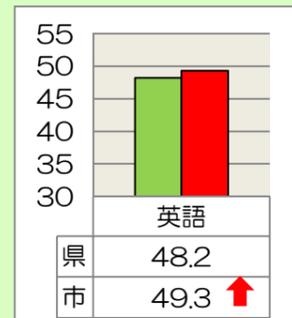
【中学2年生】



【中学3年生】



【中学3年生】



【留意点】：本年度の全国学力・学習状況調査は、全国一律で実施されていないため、全国(県)の標記は、「長崎県の値」を意味する。



長崎県、全国学力・学習状況調査結果の概要

【良好な点】

- ・県小国：「読むこと」の正答率が昨年度より7.5ポイント向上しており、目的に応じて必要な文を選んだり、細かい点に注意しながら読んだり、する問題に成果が見られた。
- ・全小国：「書くこと」の正答率が昨年度より12.7ポイント向上しており、目的や意図に応じ、文章全体の構成や表現を工夫して自分の考えが伝わるように書くことの改善が見られた。
- ・県小算：二次元表の見方や意味を理解し、必要な情報を得ることや長さの単位の理解及び単位変換に成果が見られた。
- ・全小算：立体図形の内容について、課題である記述する問題も含め、正答率が概ね良好であることから理解ができていると言える。
- ・県小理：無答率が低い。各単元において身に付ける「知識」については、概ね定着が図られている。
- ・県中国：県例年の課題であった漢字について、4題中3題で正答率が9割を超えた
- ・全中国：全体で8割を超える正答率であった。例年の課題であった漢字や書くことについては、漢字3題の正答率が95%を超え、記述式の正答率も改善が見られた。
- ・県中数：問題場面における考察の対象を捉えたり、基本的な計算処理を行ったりすることはできている。
- ・全中数：関数領域における問題に成果が見られた。
- ・県中英：県の結果より1ポイント上昇した。「聞くこと」「読むこと」の領域では正答率5割を越えている。

【課題点】

- ・県小国：ローマ字の問題や主語と述語の関係に注意して、文の間違いを書き直す問題に課題が見られ、「記述式」の問題に課題が見られた。
- ・全小国：漢字の問題や事実と意見とを区別して書く問題に課題が見られ、特に「記述式」の問題に課題が見られた。
- ・県小算：分数の意味や表し方についての理解と必要に応じたグラフの読み取りに課題が見られた。
- ・全小算：条件を用いての理由等、記述する問題の無答率が高い。また、長い説明を読んで解答する問題に課題が見られた。
- ・県小理：条件制御の意味や操作目的など、基礎・基本の定着を図る必要がある。また、根拠を基に表現する力に課題が見られた。
- ・県中国：表現技法の理解に課題が見られた。また、複数回答への対応や根拠となる内容の読解にも課題が見られた。
- ・全中国：文章の展開に即して内容を捉える問題に課題が見られた。
- ・県中数：数学的な表現を用いたり、根拠を示したりするなど、筋道を立てて論理的に説明していくことに課題が見られた。
- ・全中数：事柄の特徴を数学的に説明したり、判断の理由を数学的な表現を用いて説明したりすることに課題が見られた。
- ・県中英：「書くこと」に関しては依然課題がある。文構造をきちんと理解させ、正確性を高めさせる必要がある。